

単位数	教科担当者	使用教科書・補助教材・その他
2		
○必修 学校必修 必修選択 自由選択	井上 享子 村田 玲子	家庭基礎 気づく力 築く未来（実教出版） 生活ハンドブック（第一学習社）

◆学習の目標

- ・人の一生と家族・福祉・衣食住・消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、家庭生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。
- ・現在の社会が抱えている諸問題について総合的に学び、現在と将来をみつめ、自立した社会人となるために必要な知識を学ぶ。

◆主な学習内容・方法

- (1) 被服に関する機能や知識を身に付け自立した衣生活につなげる。
- (2) 栄養素や欠乏症、食中毒について理解を深め、健康的な食生活につなげる。
- (3) 調理実習における食材についての理解を深め、調理に必要な技術を習得する。
- (4) 家族をとりまく課題や民法及び民法改正について理解を深める。
- (5) 自然災害に目を向け安全な住まい方についての理解を深める。
- (6) 消費経済において、契約や消費トラブル、消費者を守る法律を知る。

◆到達目標と観点別評価の評価規準

〔到達目標〕

- ・生活にかかわる基礎的・基本的な知識・技術の習得。
- ・生活の身近な課題から、問題意識をもって学習に取り組む態度の育成。
- ・自分の人生や共に生きる人々との生活を含めた、家庭生活の充実向上を図る能力の育成。

〔観点別評価の評価規準〕

○知識・技能

- ・生活に関わる基本的・基礎的な知識・技術を理解し身に付けている。
- ・今までに学んだ知識や技術を実践にうつして行動することができる。

○思考・判断・表現

- ・生活における身近な課題や、社会全体の諸問題・課題に対して関心を持ち、理解し、自分の人生、家庭生活とのかかわりを見出すことができる。
- ・身近な課題のみならず社会の諸問題・課題に対して、よりよい生活・社会の在り方に向けての解決策を考え、自分のことばで表現することができる。

○主体的に学習に取り組む態度

- ・与えられた課題に意欲的に取り組むことができる。
- ・周囲の人と協力しながら、お互いに理解を深めようとするすることができる。

◆年間予定授業時間

予定時数	70時間	1学期（26時間）	2学期（28時間）	3学期（16時間）
------	------	-----------	-----------	-----------

◆学習のしかた（予習・復習・宿題・課題・その他）

- ・ 授業に関心をもち、自分のこととして積極的に取り組む態度をもつ。
- ・ **提出日は必ず守る。（遅れた場合は減点）**
- ・ 忘れ物をしない。
- ・ **飲食禁止・持ち込み禁止（被服室・調理室）**
- ・ 実習・および 課題は自力で達成させる。

◆授業計画

学期	月	単元・教材等	単元ごとの時間数	学習の内容	学習到達目標
1学期	4	第2章 家族・家庭	2 2 4	1. 青年期の自立 2. 社会の中の家族 3. 家族と法律	* 少子高齢化や家族形態の変遷、諸問題を理解し、充実した青年期を過ごすことができる。 * 高齢社会の現状と課題を理解し、高齢者を支える制度を考える。 * 一生を通じた福祉や社会的支援の必要性について理解する。 * 生活の基盤となる家計管理の重要性を認識する。 * 消費者問題の現状や消費者の権利と責任について理解する。
	5	第4章 高齢社会	4 2	4. 高齢社会の現状 5. これからの高齢者社会	
		第5章 社会保障	1	6. リスクに備える	
	6	第9・10章 経済生活	2	7. 社会保障とは	
			4	8. 経済的自立と家庭経済	
	7		5	9. 現代の消費社会 * 期末考査	
2学期	8	第7章 衣生活	2	1. 衣服の役割	* 適切な衣服の選択・管理ができるようになる。 * 布を使った生活の工夫ができる。 * 日常の食生活を振り返り、食生活の変化や課題について理解する。 * 日常的な食品の栄養的特質や調理上の性質について科学的に理解する。 * 生涯を通して健康で安全な食生活が営めるような態度を養う。 * 住居の機能や間取りについて理解し、自分のライフスタイルのみならず地域環境も考慮して住生活の選択ができるようにする。
	9	第6章 食生活	4 2	2. 衣服の管理 3. 布を用いた生活の知恵	
			2	4. 食生活の課題	
	10		6 2	5. 食事と栄養・食品 6. 食事計画	
			4	7. 調理実習（2回）	
	11	第8章 住生活	2	8. これからの食生活	
	12		4	9. 住居の機能と変化 * 期末考査	
3学期	1	第3章 子どもの保育	2 4	1. 住生活の計画と選択 2. 乳幼児の心身の発達	* 子どもの発達の特徴を理解し、適切な保育環境について考えることができる。 * 今までの学習をふまえ、自分のライフスタイルを考え、高校卒業後の生活設計を立てる。
	2	第1章 生活設計	4	3. 子どもの発達と保育	
			2	4. これからの保育環境	
	3		2	5. 生涯を見通す	
			2	6. ライフ・プランニング * 期末考査	